

第八章 電 源 開 発

(二) 長 安 口 ダ ム

県営日野谷発電所は、長安口ダムの築造とあいまって建設された四国最大の水力発電所であり県最大の事業でもあった。先の昭和二十七年に完成した坂州発電所の電力を以て工事がはじめられ、三カ年余の歳月をかけ昭和三十年十一月に完成した。

高さ八十三メートルのダム完成によって湛水面積二・二四平方キロメートル、総貯水量五千四百二十七万八千立方メートルで、標高二二五メートルの水面となり、これ以下の土地、家屋、山林田畑はすべて湖水の下に没し

さったのである。

このダムによってたえられた水は、平常水位の時には本村の役場前下流約一キロメートルの地点まで達している。

長安口ダムの貯水により本村の木頭部落で水没した家屋と耕地は次のとおりである。

- ・宅地及び家屋の水没 一戸（中原義太郎）
- ・耕地（田）の九割までが水没し、完全水没の扱いを受けた家 二戸（湯浅完太郎・川尻貴）
- ・耕地の一部が水没した家 四戸

右の七戸が水没対象となったが、水田では八反（約〇・八ha）余、畑を合わせると約一町歩（約一ha）の耕地が水底に没し、それぞれ補償を受けた。